

Watching Carefully



salon COLLOL in KYOTO Kamonikuya Shoots Milky-Sky

@Bon Bon Cafe

「鴨肉屋ミルキースカイを撃つ」

取材・文・撮影／トリアウト



「何か面白いことない?」。混沌とした世の中。街も、人も心地よい刺激に飢えている。時にそれは「ステージ=舞台」にも求められ…。東京の路上で劇場空間を超えたライブパフォーマンスを行うCOLLOL(コロール)=田口アヤコ+Lobi。が、弊誌の表紙モデルも務めてくれた、'60Sグラフィティを体現するGO! GO! マグネグflowerモモンガ(以下ゴーマグ)の二人を客演に迎え、ファンタスティックな官能エンターテインメントを披露した。今、なぜ京都? 「京都なんて考えたこともなかった」とCOLLOLの二人。関東圏外での公演実績もなくそんな気もサラサラなかった。「京都でやったらウケるんじゃない?」。客の一言、それがきっかけ。構想期間10ヵ月。ゲストで呼ばれていたゴーマグとのコラボ、衣装制作や劇中音楽は京都在住のアーティストに依頼した。食べ

て飲めてラフに楽しめるハコ、そして、川のほとり。ロマネスクな京都カフェに固執した。「こういう演劇は初めて。逆にハコとしての新しい使い方を提案してもらった感じ。今後もやっていきたいですね」。Bon Bon Cafeスタッフは言う。「いろんな人にストリップを見て欲しい。勘違いしている人が多いから」。躊躇しない、爽快な脱ぎっぷりは、俗に言う変ないやしさは微塵もなく、アーティストチックなエロさを醸し出す。「今後は、関西でも積極的にやっていきたい。もっと小さいハコとか、生演奏をバックに演じてみたい」。ギュッと凝縮された45分間のステージ。「短くても満足できるモノってあると思うんです。集中力が無いのもあるんですけどね(笑)」。2人だけのCOLLOL。そして、ハコとしてのカフェの存在。そこに秘められたパワーは無限大だ。



C



B.



A.



F.



E.



D.

A 田口アヤコさん(左)とLobiさん。「木屋町のお店に焼酎のボトルをキープしちゃったので、絶対また来ないとダメなんです(笑)」
 B.GOI GOI マグネツflowerモモンガの羽友友妃子さん。「ウレシハズカシのミニスカート(笑)。いつものゴーマツとはちと違いますね」
 C.「いつも出てもらってる帯なので、ゲストなんて初めて」と、同じくゴーマツの西山ヒナさん。3~5月にかけて再演シリーズを公演予定
 D.左から、織田さん、岩水さん、永廣さん、川崎さん、田中さん。「愛のコーヒー店、Bon Bon Cafeへ是非!」とスマイリーなスタッフ陣
 E.公演前のレセプションパーティで出演したバンド「ハレバス」が当日も演奏。Vol.黒坂さん、G.若木さん、G和井内さん、Dr.永田さん、B.倉光さん
 F.COLLLOLからのオファーで劇中音楽を手掛けた、アコーディオン奏者の生駒祐子さん。「今日初めて見たんですけど、めちゃかわいくて素敵でした」
 G.「実はまだ専門学生です」という山本瑠衣さんはCOLLOLの公演で音響&照明を担当。本公演では音響と、ビールを持って劇中にも登場
 H.常連さんに誘われて来たという、ヘアサロン「スプラッシュ」のスタイリスト、スミさん。今日のヘアスタイルテーマは? 「哀愁(笑)」
 I.最前列でご鑑賞のアキノリさんとアキさんご夫婦。「何も知らずにお茶しに来てで…。8ヵ月になるお腹の子へのいい刺激になりました」
 J.ゴキゲンポーズの、みかみたかみクン4歳。ママがLobiさんと飲み友達で、今宵は富山県からのご入浴。なぜか犬ハシヤギ
 K.付き合って2年、出会いはマル秘のカップル。ガス点検の仕事終わりに来場したタカノリさんと彼女のあわじさん。「ガスもれには注意」
 L.保母さんのアイさん(右)と、ゴーマツの京都公演は欠かさず見に来てますというモコさん。「1週間前から家事手伝いになりました(笑)」



I.



H.



G.



L



K



J.

